



環境省

## LEAP/TNFDの解説

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《アドバンス編》

第1回 ライフサイクル全体を通じた自然との関わりの評価・分析①

2023年11月29日



ご利用はコチラ→



1. LEAPアプローチ

2. TNFD

---

# 1. LEAPアプローチ

---

# 1

LEAPアプローチ

## TNFDが推奨するLEAPアプローチとは

- LEAPアプローチは、**自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチ**として、TNFDにより開発されました。
- LEAPアプローチでは、スコーピングを経て、Locate（発見する）、Evaluate（診断する）、Assess（評価する）、Prepare（準備する）のステップを踏み、TNFD情報開示に向けた準備を行います。
- LEAPアプローチは、TNFDが推奨するステップであり、**実施は必須とされていませんが、パイロットテストの結果からも有効**とされています。

Scoping  
(スコーピング)

Locate  
(発見する)

Evaluate  
(診断する)

Assess  
(評価する)

Prepare  
(準備する)

# 1

LEAPアプローチ

## LEAPアプローチのステップと質問項目

### スコーピング

作業の仮説を立てる

目標とリソースの調整

発見する(Locate)	診断する(Evaluate)	評価する(Assess)	準備する(Prepare)
L1 ビジネスモデルとバリューチェーンの範囲	E1 環境資産、生態系サービスとインパクトドライバーの特定	A1 リスクと機会の特定	P1 戦略とリソース配分計画
L2 依存関係とインパクトのスクリーニング	E2 依存関係とインパクトの特定	A2 既存リスクの軽減とリスクと機会の管理の調整	P2 ターゲット設定およびパフォーマンス管理
L3 自然との接点	E3 依存関係とインパクトの測定	A3 リスクと機会の測定と優先順位付け	P3 報告
L4 インパクトを受けやすい地域との接点	E4 重要性のインパクト評価	A4 リスクと機会の重要性の評価	P4 公表

### LEAPを実施する上でサポートとなるTNFDの開示提言

戦略D

戦略A  
戦略D  
リスクとインパクトの管理A (iおよびii)  
リスクとインパクトの管理B  
測定指標とターゲットB

戦略A  
戦略C  
戦略D  
リスクとインパクトの管理A (iおよびii)  
リスクとインパクトの管理B  
リスクとインパクトの管理C  
測定指標とターゲットA  
測定指標とターゲットB

ガバナンスA  
ガバナンスB  
ガバナンスC  
戦略B  
戦略C  
測定指標とターゲットC

# 1 LEAPアプローチ 使用データについて

- ▶ 分析に用いるデータ/情報としては、基本的に**一次データ（直接測定）が望ましい**とされています。
- ▶ 分析の最初のステップとして、二次データを使用して自然関連課題を推定することが可能ですが、より高いトレーサビリティが達成されるまでの**過渡的な手段**とみなし、**徐々に精度を上げていく**ことが求められています。

	一次データ	二次データ（含むプロキシデータ）
<b>概要</b>	特定の影響要因、生態系サービス、自然の状態の変化の評価のために直接測定・収集されたデータ。	データ利用者以外の主体によって生成されたデータで、モデル化されたデータや第三者のデータ等を指す。
<b>例</b>	原材料消費量の測定値、収益、調査またはサンプリングにより収集された現場レベルのデータなどの内部データ及びサプライヤーや顧客から収集したデータ	公表されている（査読を受けている）文献（ライフサイクル影響評価（LCIA）データベース、産業界、政府、又は内部の報告書）

- ▶ 二次データを使用する場合は、下記の5つの基準に基づいてデータを評価すべきとされています。

- ① **具体性**：その問題や場所に特化したものであるべき。
- ② **測定可能**：関連するデータや情報の収集を通じて測定可能で、対象との関係が確立されており、科学的に検証されているものであるべき。
- ③ **野心的**：課題の特異性において可能な限り野心的なデータソースを目指すべきであり、査読を受けた信頼できるソースを採用すべき。
- ④ **現実的**：証拠、知識、理解に基づき、データの入手可能性、分析方法、評価対象システムの複雑さにおける現実的な制約や限界を認識した上で、評価の妥当性を理解することができるように、直接測定と比較した二次データ（プロキシデータ）の限界について理解すべき。
- ⑤ **時間的制約**：データは当該期間に関連したものでなければならず、定期的に更新されるべき。

# 1

LEAPアプローチ

## 参考 | LEAPガイダンスv1.1での変更点

- TNFD最終提言発表後の10月に、LEAPガイダンス（Guidance on the identification and assessment of nature related issues: The LEAP approach）がVersion 1.1に更新されましたが、基本的にはコンテンツに変更はなく、微修正のみでした。
- 具体的な変更点
  - 全体的なフォーマット更新（Bold、Italic等）
  - テキスト、画像のフォーマット更新
  - レイアウト更新(リンク先貼る、画質を向上等)
  - 文法の修正、ソースの更新
  - Scopingのアウトプット想定に'and'を付与
  - Locate, Assess, Prepareのアウトプット想定に'and'を付与

# 1 LEAPアプローチ Scopingフェーズ

- LEAPのステップに入る前に、**LEAPプロジェクトチームと経営層の間で、目標や期待される成果、タイムライン、人員や予算要件などについて調整することが不可欠**とされています。
- スコーピングフェーズでは、組織の潜在的な自然関連の依存関係、インパクト、リスク、機会において予想される**セクター、活動、バリューチェーン、地域、特性に関する仮説を作成**するため、社内外のデータや参考情報をもとに、素早くハイレベルで予備的なスキャンを行います。
- 効果的なスコーピングの鍵は、**最初の調査やデータスキャンに多くの時間や資源を投入しないこと**とされています。

## スコーピング

組織の潜在的な自然関連の依存、インパクト、リスクおよび機会に関する仮説を創出し、LEAP評価のパラメータを定義し、経営層と評価チームが目標とスケジュールについて一致していることを確認するため、内部および外部のデータと参考情報源を素早くハイレベルで事前調査すること。

### 作業の仮説を立てる

組織における重要な自然関連の依存、インパクト、リスク、機会がありそうな活動は何か？

### 目標とリソースの調整

組織内の現在のキャパシティ、スキル、データのレベル、および組織の目標を考慮した上で、アセスメントを実施するために必要なリソース（財務、人材、データ）と時間配分を検討し、合意する。



# 1 LEAPアプローチ Locateフェーズ

- Locateフェーズでは、**3つのフィルター（セクター、バリューチェーン、地理的位置）を用いて自然に関連する潜在的な問題を絞り込み、優先順位をつけることを推奨**しています。
- 自然関連の依存関係やインパクト、リスク、機会は**場所特有**のものであるため、これらを特定、評価、管理する上で**立地が非常に重要**であることが強調されています。
- Locateフェーズでは、以下の成果が期待されています。
  - セクター、バリューチェーン（上流及び下流）、地域別にフィルタリングされた、**中程度及び高程度の自然に関連する依存及び影響の理解**
  - 事業活動を行う生態学的に**影響を受けやすい場所のリストや地図、LEAP評価を行う場所**
  - 自然との接点について評価されたビジネスモデル、バリューチェーン、資本ポートフォリオの割合の理解

## 発見する (Locate) 自然との接点

L1 ビジネスモデルと バリューチェーンの範囲	セクター別およびバリューチェーン別の自社組織の活動は何か。 直接的操業している拠点はどこか。
L2 依存とインパクトの スクリーニング	これらのセクター、バリューチェーン、直接的操業のうち、自然への依存やインパクトが中程度または高い可能性のあるものはどれか。
L3 自然との接点	中程度または高い依存とインパクトを持つ可能性のあるセクター、バリューチェーン、直接的操業はどこにあるか。 直接的操業や、依存が中程度でインパクトの大きいバリューチェーンやセクターは、どの生物群系や特定の生態系と接点を持っているか。
L4 インパクトを受けやすい 地域との接点	バリューチェーンやセクターにおいて、依存やインパクトが中程度または高い組織の活動のうち、生態学的に影響を受けやすい場所はどれか。 また、直接的操業のうち、どの拠点が生態学的に影響を受けやすい場所にあるか。

# 1 LEAPアプローチ Evaluateフェーズ

- Evaluateフェーズでは、組織にとって潜在的に重要な**自然への依存関係とインパクト**を把握します。これには**上流・下流のバリューチェーン**も含まれますが、**まずは少数の重要性の高い課題（例：パーム油産地）から着手し、その後開示範囲を広げる**ことも推奨しています。
- 依存関係やインパクトの分析は、**リスクと機会を理解するための重要な第一歩**となります。
- Evaluateフェーズでは、以下の成果が期待されています。
  - 関連する環境資産と生態系サービスのリスト
  - 組織の自然への依存関係とインパクトのリスト
  - 潜在的に重要な依存関係と自然へのインパクトの分析、および重要な依存関係とインパクトのリスト

診断する(Evaluate) 依存とインパクト	
E1 環境資産、生態系サービスとインパクトドライバーの特定	分析対象となるセクター、ビジネスプロセス、活動は何か。どのような環境資産、生態系サービス、インパクトドライバーが、これらのセクター、ビジネスプロセス、活動、評価対象地域と関連しているのか。
E2 依存とインパクトの特定	自然に対する依存やインパクトは何か。
E3 依存とインパクトの測定	自然への依存規模や範囲はどの程度か。 自社が自然に与えるマイナスのインパクトの重要度はどの程度か。 自社が自然に与えるプラスのインパクトの規模と範囲はどの程度か。
E4 重要性のインパクト評価	自社のどのインパクトが重要か。

# 1 LEAPアプローチ Assessフェーズ

- Assessフェーズでは、LocateおよびEvaluateフェーズで特定された自然への依存関係とインパクトに起因する、**自然関連のリスクと機会の特定、測定、優先順位付け**を行います。
- Assessフェーズでは、以下の成果が期待されています。
  - 関連する自然関連のリスクと機会のロングリスト（既存のリスクマトリックスにプロット可能）
  - 重要な自然関連リスクと機会のショートリストおよび優先順位の高い場所のリスト
  - 自然関連のリスクと機会を、既存のリスクと統合させるためのプロセス概要。

評価する (Assess) リスクと機会	
A1 リスクと機会の特定	自社の組織に関連するリスクと機会は何か。
A2 既存リスクの軽減と リスクと機会の管理の調整	既存のリスクを軽減し、リスクと機会を管理するプロセスと要素で、すでに適用しているものは何か。 リスクと機会の管理プロセスと関連要素（例えば、リスクタクソミー、リスクインベントリ、リスク許容度基準）をどのように適合させることができるか。
A3 リスクと機会の測定と 優先順位付け	どのリスクと機会が優先されるべきか。
A4 リスクと機会の 重要性の評価	どのリスクと機会が重要であり、TNFDの開示提言に沿って開示する必要があるか。

# 1 LEAPアプローチ Prepareフェーズ

- Prepareフェーズでは、Locate、Evaluate、Assessの評価を用いて、**特定された課題に組織がどのように対応すべきか、TNFDの開示提言に沿って何を開示するか**について、**社内の利害関係者との議論に反映させる必要がある。**
- Prepareフェーズでは、以下の成果が期待されています。
  - 効果的な目標とターゲットの設定を含め、LEAPアプローチで特定された自然関連の課題に組織がどのように対応するかについての合意
  - 自然関連の評価に照らしたガバナンスおよびリスク管理プロセスについての組織内の議論
  - 自然関連の評価と照合した組織による自然関連の目標およびターゲットの設定
  - TNFDに沿った開示の作成と公表

準備する(Prepare) 対応し報告する	
P1 戦略とリソース 配分計画	この分析の結果、どのようなリスクマネジメント、戦略および資源配分が決定されるべきか。
P2 ターゲット設定および パフォーマンス管理	どのようにターゲットを設定し進捗度を定義・測定するのか。
P3 報告	TNFDの開示提言に沿って、何を開示するのか。
P4 公表	自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか。

---

## 2. TNFD

---

# 2 TNFD TNFDの目的

- TNFDは世界の**資金の流れ**を「**ネイチャー・ポジティブ**」に貢献できるように変えることで、生態系や自然資本を守る、後押しをすることを目的としている。
- TNFDは財務報告書へのサステナビリティ関連開示の統合に対応するもので、企業が取締役会や経営レベルでの戦略やリスク管理に利用できる質の高い情報を提供し、**最終的に資本配分や資産評価に関する意志決定を向上させることが可能である。**

表 TNFD開示提言（4つの柱と14の開示推奨事項）

<p style="text-align: center;"><b>ガバナンス</b></p> <p style="text-align: center;">自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する組織のガバナンスを開示する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>戦略</b></p> <p style="text-align: center;">自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的なインパクトを、そのような情報が重要である場合に開示する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>リスクとインパクトの管理</b></p> <p style="text-align: center;">組織が自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けし、監視するために使用するプロセスを記載する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>測定指標とターゲット</b></p> <p style="text-align: center;">自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を評価し、管理するために使用される測定指標とターゲットを開示する。</p>
開示提言	開示提言	開示提言	開示提言
<p>A. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する取締役会の監督について説明する。</p>	<p>A. 組織が短期、中期、長期にわたって特定した、自然関連の依存、インパクト、リスク、機会について説明する。</p>	<p>A. (i)直接操業における自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けするための組織のプロセスを説明する。</p>	<p>A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、重大な自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。</p>
<p>B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。</p>	<p>B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与える影響、および移行計画や分析について説明する。</p>	<p>A. (ii)上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けするための組織のプロセスを説明する。</p>	<p>B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用する測定指標を開示する。</p>
<p>C. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に対する組織の評価と対応において、先住民、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。</p>	<p>C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。</p>	<p>B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を管理するための組織のプロセスを説明する。</p>	<p>C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。</p>
	<p>D. 組織の直接操業において、および可能な場合は優先地域に関する基準を満たす上流と下流のバリューチェーンにおいて、資産や活動がある場所を開示する。</p>	<p>C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。</p>	



## LEAP/TNFDの解説

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《アドバンス編》

第1回 ライフサイクル全体を通じた自然との関わりの評価・分析①

2023年11月29日

受託者：EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 EY新日本有限責任監査法人